

平成27年度

ニホンザルに関する各種データ

宮城県ポピュレーション変遷

単位：年度，頭

名称		加美	仙台・川崎	七ヶ宿	白石	丸森西部	丸森東部	大崎	群計	ハナレザル	内地計	金華山	合計
H 1 6	群数	3	10	7	2	詳細不明		1	23	-	23	6	29
	頭数	100	560	440	80			50	1,230	290	1,520	230	1,750
H 1 7	群数	3	11	7	2	詳細不明		1	24	-	24	6	30
	頭数	110	580	360	80			60	1,190	300	1,490	210	1,700
H 1 8	群数	3	12	7	3	2		1	28	-	28	6	34
	頭数	130	650	370	120	100		60	1,430	380	1,810	245	2,055
H 1 9	群数	3	12	7	3	1	1	1	28	-	28	6	34
		3	12	7	3	1	(2)	1	(29)	-	(29)	6	(35)
	頭数	140	548	394	140	30	100	50	1,402	420	1,822	219	2,041
H 2 0	群数	3	13	7	3	1	1	1	29	-	29	6	35
		3	13	7	3	1	(2)	1	(30)	-	(30)	6	(36)
	頭数	150	559	413	130	30	100	30	1,412	395	1,807	249	2,056
H 2 1	群数	3	14	7	3	1	2	1	31	-	31	6	37
	頭数	150	589	501	130	30	150	20	1,570	471	2,041	254	2,295
H 2 2	群数	3	15	10	3	1	2	1	35	-	35	6	41
	頭数	120	614	666	130	26	150	7	1,713	514	2,227	243	2,470
H 2 3	群数	4	14	10	3	1	2	1	35	-	35	6	41
	頭数	133	639	609	205	30	150	2	1,768	530	2,298	259	2,557
H 2 4	群数	4	17	12	4	1	2	-	40	-	40	6	46
	頭数	145	684	706	265	30	146	-	1,976	593	2,569	264	2,833
H 2 5	群数	4	17	13	5	1	2	-	42	-	42	6	48
	頭数	145	744	712	315	31	146	-	2,093	628	2,721	239	2,960
H 2 6	群数	5	19	13	7	1	3	-	48	-	48	6	54
	頭数	176	808	694	380	31	215	-	2,304	691	2,995	305	3,300

※ 出典：ニホンザル保護管理事業報告書

※ 群数の（ ）の数字は，不明群を加算した数値である。

県内の群れの変遷 (H16～H26)

ポピュレーション	群れの名称	評価	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
加美	小野田A群	A～B	20～40	50	30	60	60	60	50	40	50	50	50	
	小野田B群	B～C	10	10	20	20	30	30	30	20	20	20	30	
	宮崎A群	E	40～50	50	56	60	60	60	40	40	40	40	40	
	寒風沢の群れ	A～B	—	—	—	—	—	—	—	33	35	35	29	
	宮崎B群	調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27	
仙台・川崎	奥新川A1群 福岡の群れ (H23.5全頭捕獲)	WF	100	70	50～60	44	9	6	3	—	—	—	—	
	奥新川A2群 青下の群れ (H23年度追加)	WF	—	40	22	9	9	13	13	14	14	14	12	
	奥新川B1群 奥新川B2群 (H26.2消滅)	C	30～40	30～40	45	40	45	36	42	45	48	59	59	
	新川不明群 (H25年度追加)	調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50	50	
	秋保大滝A群	WF	60	65	65	41	44	30	25	28	20	18	14	
	秋保大滝B群	WF	35	31	35	10	8	11	10	8	10	12	14	
	定義の群れ	C	40	45	44	39	42	49	52	53	53	45	50	
	二口A群	D～E	70	73	80	80	90	90	100	100	65	65	65	
	二口B群	A～B	—	—	—	—	—	—	—	—	20	35	35	
	高倉山A群	F	—	—	—	—	—	—	—	—	40	44	44	
	高倉山B群	E	70	80	100	90～100	100	100	100	100	30	30	31	
	関山峠の群れ	B	40	30	40	40	50	50	45	45	45	45	37	
	太郎川の群れ	D～E	30～40	50	50～60	60～70	45	40	45	46	46	50	50	
	本砂金の群れ	F	—	—	—	—	—	50	50	80	95	86	80	
	三森山の群れ	調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	80	80	100	
	笹谷峠A群	E	60～65	60～65	60～65	60～65	60～65	80	80	80	80	80	70	
	笹谷峠B群	調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30	
	青根の群れ	調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30	
	七ヶ宿	七ヶ宿A群	E～F	67	68	63	52	63	66	37	31	37	39	25
		七ヶ宿B群	E～F	59	61	55	58	48	63	59	51	53	51	49
七ヶ宿C群		E～F	82	43	51	71	78	82	67	60	59	49	39	
七ヶ宿D群		E～F	74	56	68	68	62	64	93	94	118	117	121	
七ヶ宿E群		E～F	78	66	69	72	81	102	137	137	78	61	62	
七ヶ宿F群		E～F	38	43	36	38	42	79	76	51	71	48	31	
七ヶ宿G群		E～F	23	26	31	35	39	45	54	38	55	53	53	
七ヶ宿H群 (H23年度追加)		調査中	—	—	—	—	—	—	68	61	52	54	54	
七ヶ宿I群 (H23年度追加)		調査中	—	—	—	—	—	—	49	53	56	53	69	
七ヶ宿J群 (H23年度追加)		調査中	—	—	—	—	—	—	26	33	49	49	53	
七ヶ宿K群 (H24年度追加)		調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	49	51	27	
七ヶ宿L群 (H24年度追加)		調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	29	41	60	
七ヶ宿M群 (H25年度追加)		調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	46	51	
白石	戸沢の群れ	E～F	45	50	40～50	50	50	50	50	85	85	85	90	
	猿鼻の群れ	E～F	不明	30	不明	30	30	30	30	60	60	60	60	
	江志前の群れ	F	—	不明	40～50	60	50	50	50	60	100	100	100	
	苗振不明群 (H24年度追加)	調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	20	20	20	
	新町不明群 (H25年度追加)	調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50	50	
	上戸沢の群れ	調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30	
江志前不明群	調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30		
夫崎	鳴瀬右岸群 (H24年度未消滅)		50	60	40～50	40～50	30	20	7	2	—	—	—	
丸森西部	耕野の群れ	WF	不明	不明	30～40	30～40	30～40	30	26	30	30	31	31	
丸森東部	青葉の群れ	調査中	不明	不明	30～40	30～40	30～40	50	50	50	50	50	50	
	大内の群れ	F	—	—	不明	60～70	60～70	100	100	100	96	96	155	
	大内分裂群	調査中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	
6	42							1,570	1,713	1,768	1,976	2,093	2,304	
金華山	A		30	26	34	28	36	50	37	56	56	48	63	
	B1		21	22	30	26	34	48	34	42	40	35	48	
	B2		13	10	15	14	17	20	19	27	24	25	31	
	C1		20	19	19	13	18	23	15	25	25	14	13	
	C2		20	16	17	16	19	29	20	26	26	28	31	
	D		62	63	68	65	70	84	64	83	93	89	119	
	6		166	156	183	162	194	254	189	259	264	239	305	

※ 出典：ニホンザル保護管理事業報告書（宮城県委託）

サル捕獲状況

	有害	個体数調整	計
S62			
S63			
H1	1	0	1
H2	0	0	0
H3	28	0	28
H4	31	0	31
H5	5	0	5
H6	25	0	25
H7	38	0	38
H8	45	0	45
H9	24	0	24
H10	65	0	65
H11	69	0	69
H12	31	0	31
H13	96	0	96
H14	57	0	57
H15	56	0	56
H16	64	0	64
H17	0	48	48
H18	0	204	204
H19	0	59	59
H20	0	132	132
H21	0	149	149
H22	0	190	190
H23	0	146	146
H24	0	164	164
H25	0	138	138
H26	0	269	269

市町村	H25	H26		H27
	捕獲数	捕獲目標	捕獲数	捕獲目標
仙台市	48	100	70	130
白石市	8	50	17	50
角田市		25		25
七ヶ宿町	37	150	85	100
川崎町	13	100	46	50
丸森町	28	50	39	50
山元町		10		10
大崎市		1		3
加美町	4	30	12	30
合計	138	516	269	448

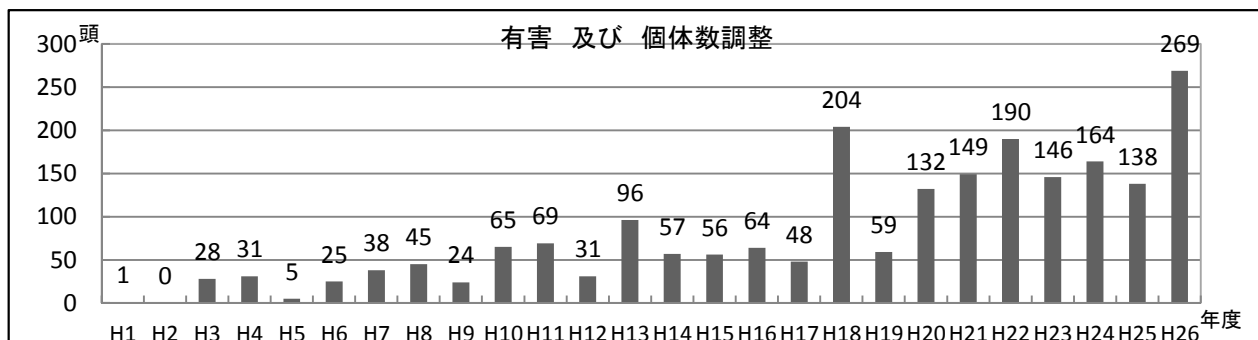
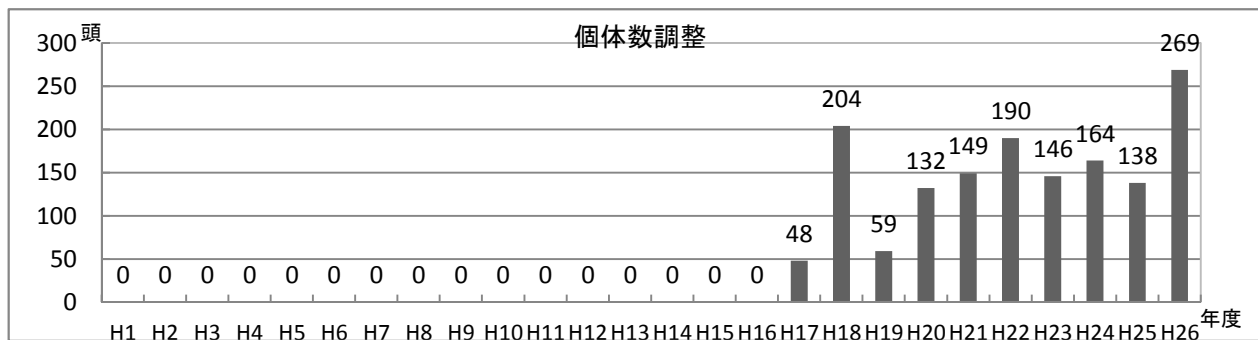
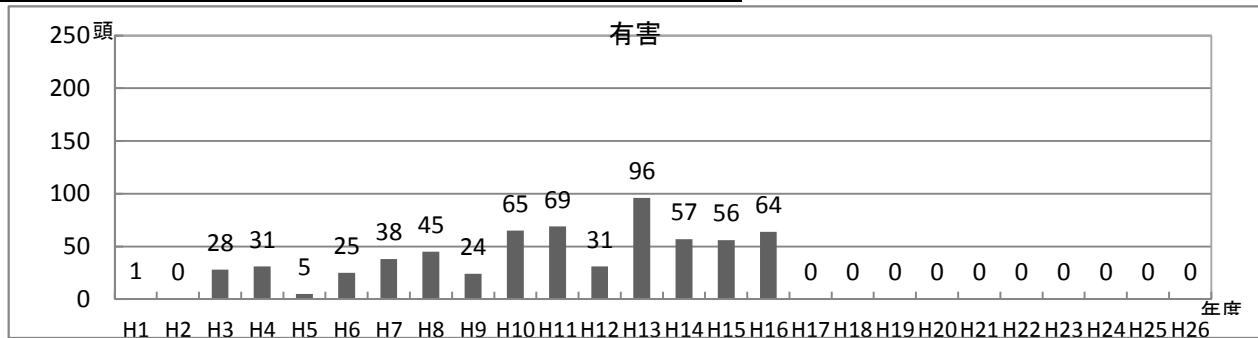
※ 宮城県ニホンザル保護管理計画策定以前(H16まで)は、有害鳥獣捕獲により実施。
第一期計画策定以降は、計画対象区市町村については個体数調整、計画対象区域以外の市町村は有害鳥獣捕獲により実施。

※ 第二期宮城県ニホンザル保護管理計画については、東日本大震災の影響により、当初計画の5年を1年延長して6カ年で実施。
第三期計画は、鳥獣保護事業計画の最終年に合わせ、平成25年度から平成28年度までの4カ年計画で策定。

サル1期計画

サル2期計画

サル3期計画



サル被害状況

単位:千円

	被害金額 (万円)	被害面積 (ha)	被害量 (t)
H3	150	6.5	11.8
H4	420	6.7	18.7
H5	50	1.3	8.2
H6	144	3.3	21.4
H7	171	2.8	30.4
H8	1,096	10.8	90.2
H9	499	8.0	55.0
H10	555	37.9	35.3
H11	457	4.4	33.8
H12	668	5.0	19.4
H13	1,229	10.6	49.6
H14	789	30.6	83.4
H15	1,014	23.6	116.1
H16	935	11.1	104.1
H17	327	3.5	79.2
H18	1,545	13.5	101.7
H19	2,238	13.3	238.0
H20	730	9.4	100.9
H21	759	7.7	58.2
H22	697	10.6	71.6
H23	706	5.7	55.3
H24	999	16.4	68.8
H25	1,069	8.5	75.1
H26	814	15.2	75.1

計画策定 市町村	H25	H26		H27
	被害金額	目標	被害金額	目標
仙台市	351	407	686	569
白石市	5,987	5,388	3,010	2,709
角田市				
七ヶ宿町	2,996	1,610	3,264	2,930
川崎町	213	170	238	166
丸森町	310	300	132	250
山元町	456	1,125	407	400
大崎市	6	1	0	3
加美町	370	185	379	340
合計	10,689	9,186	8,116	7,367

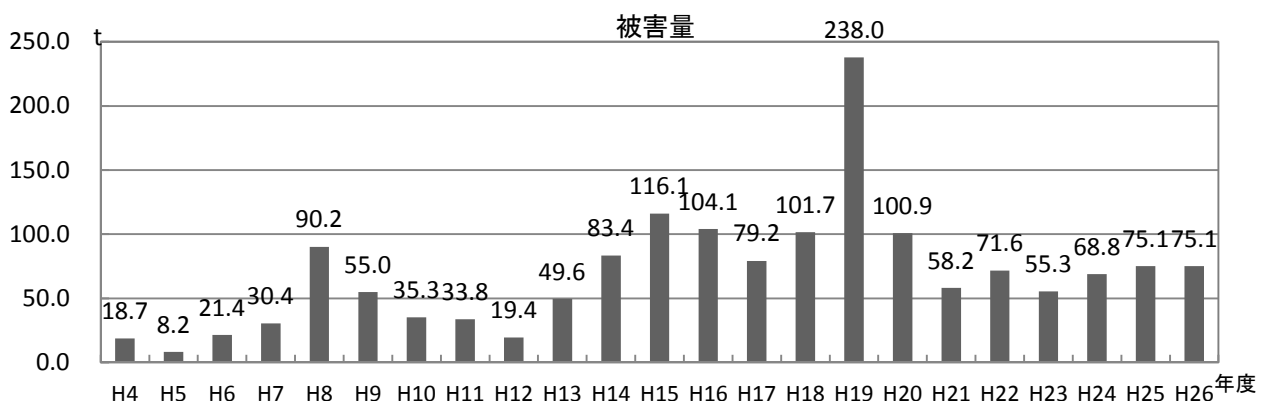
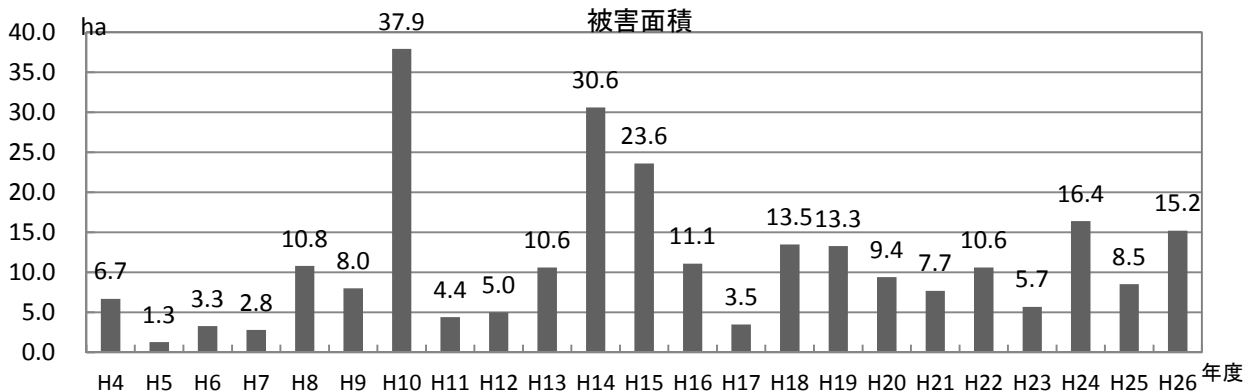
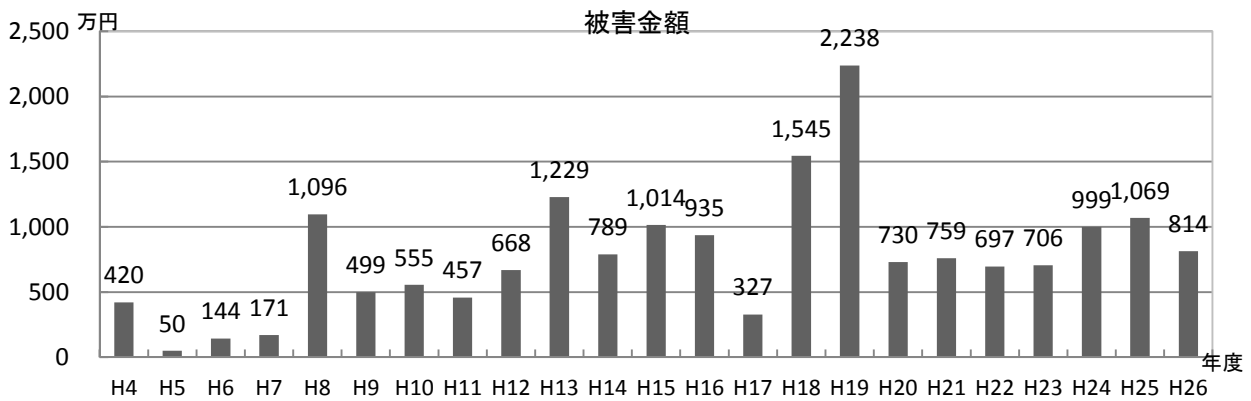
※H26の被害金額について、蔵王町で20千円の被害報告あり(農園課まとめ)

サル1期計画

サル2期計画

サル3期計画

※ 第二期宮城県ニホンザル保護管理計画については、東日本大震災の影響により、当初計画の5年を1年延長して6カ年で実施。
第三期計画は、鳥獣保護事業計画の最終年に合わせ、平成25年度から平成28年度までの4カ年計画で策定。



ニホンザルの群れ評価の判定基準

評価項目 評価 レベル	人に対する反応	農地への出方	住宅地への出方	各種威嚇に対する 反応	追い上げのしや すさの程度*
A	数 100m の距離があっても接近して来る人の姿を見れば逃げる	出設しない	出設しない	威嚇する前に逃げ去る	①上流側にはいない。下流側にはいる場合とない場合がある。 ②良好。農耕地がない。
B	人との距離が 50～100m になると逃げる	時に群れのオスが出設する	出設しない	強力花火を撃つとただちに逃げ去る	①上流側にはいない。下流側にはいる場合とない場合がある。 ②良好。農耕地はわずか。
C	人との距離が 50m 以内になっても逃げないことがある	時にオトナメスも出設する	警戒しながらも住宅地のすぐ近くまで来ることがある	強力花火だとゆっくりと、銃器を使用すると急速に逃げる	①上流側にはいない。下流側にはいる場合とない場合がある。 ②良好。農耕地や人家が少しある。
D	追い払ったら逃げるが、そうしなければ人を無視する	頻繁にオスやオトナメスが出設する	移動時に住宅地を通過する	強力花火や銃器等を併用するとゆっくりとだが逃げる	①上流側にはいない。下流側にはいる場合とない場合がある。 ②やや良好。農耕地や人家がかなりある。
E	追い払っても遠くへは逃げずに身を隠すだけのことが多い	頻繁にコドモやアカンボウも出設する	休息時にも住宅地の人工物を利用することがある	強力花火や銃器等を併用しても逃げない個体がいる	①上流側にいる。下流側にはいる場合とない場合がある。 ②森林の面積より植林地・農耕地・宅地等の面積が上回る。
F	人を恐れず、すぐ近くに身を隠すだけである	常に群れの全員が出設する	移動や休息に頻繁に利用し、軒下につるした農作物まで採食する	なにを使用しても近くにとどまり、移動方向を変えない	①上流側にいる。下流側にいない。 ②植林以外の森林面積が多くなく、農耕地や人家が入り組んで存在する。
WF	逆に人を威嚇したり攻撃する場合もある	農地に居座った状態になる	家屋内まで侵入して食物をあさったり、人の手から食物を強奪さえする	あらゆる威嚇道具への対処法を学習し、逆に人に向ってくることもある	①上流側にいる。下流側にいない。 ②平坦な地形で植林以外の森林面積がほとんどなく、農耕地と人家が連続して存在する。

*:①上流側と下流側の隣接群の存在, ②追い上げ目標地域の森林の状態

注) WF レベルを新たに追加設定した背景には次のような諸事情がある。

- 1) 群れの一部が市街地にまで進出している。
- 2) 群れ又は群れの一部が市街地を含む住宅密集地に遊動域を構えている。
- 3) 農業被害以外の生活被害が多発化しつつあり、人的被害が発生する危険性もきわめて高い。

このような地域は、平坦な地形が多くかつ人口密度が高いことから「銃器の使用ができないこと」、高齢者や乳児・幼児への悪影響から「爆音の強力な花火等の使用もできないこと」など、追い上げはもとより追い払いすら困難な状況にある。

2) 群れの空間配置

図 1-10 には宮城県における群れの冬季間の主遊動域を用いた空間配置を示した。昨年度と比較すると、加美ポピュレーション、仙台・川崎ポピュレーション、白石ポピュレーション、丸森東部ポピュレーションで群れが増えたことなどが指摘できる。

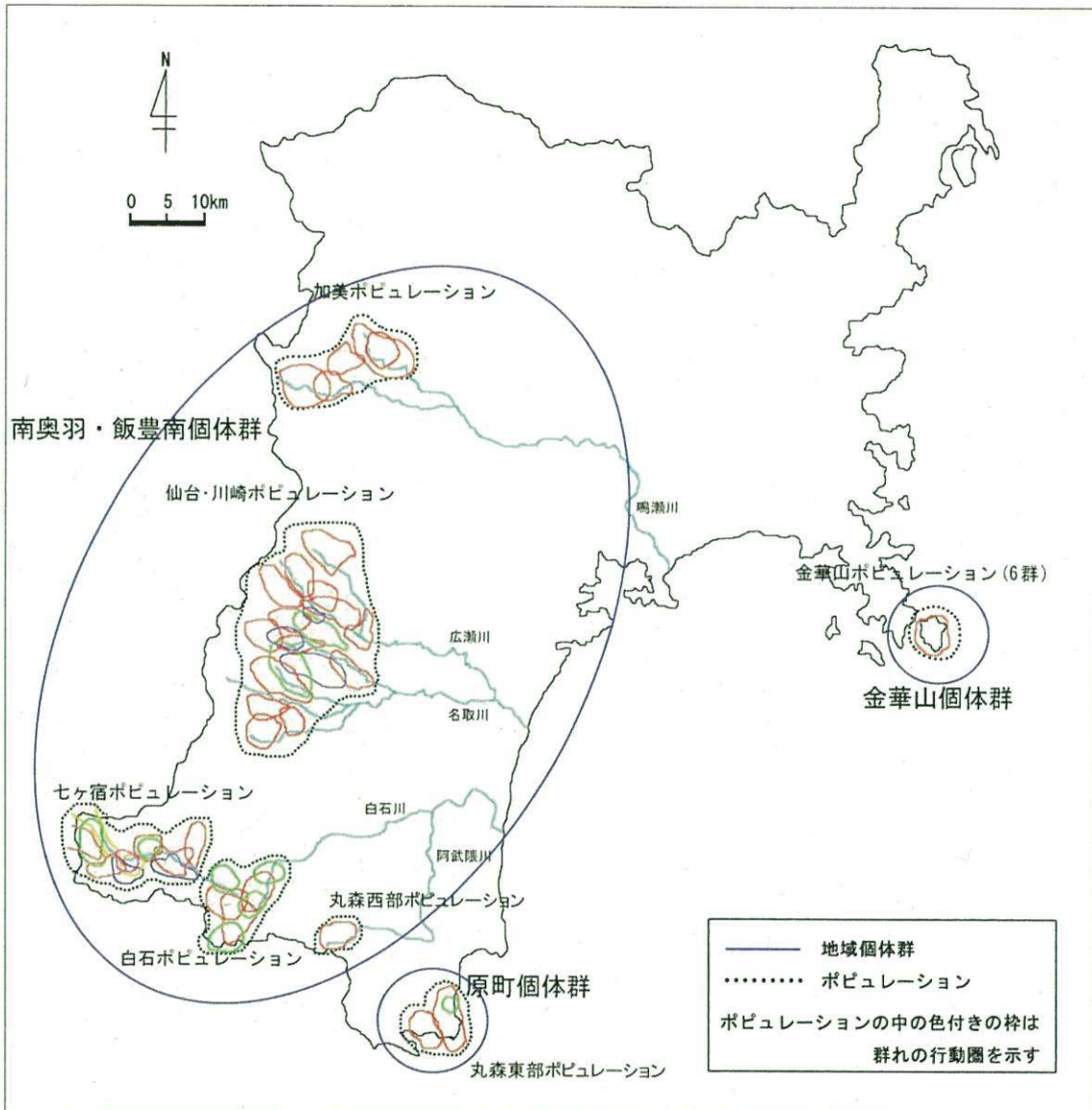


図 1-10. 宮城県における群れの空間配置(2014 年度)